

金立小学校

指導と評価の一体化を実現する 学習評価



金立小学校 校内研究
プチ講話 3
2024年7月24日(水)
校長 副島 和久



1

評価の大原則

- 評価は基本的に、（ ）である。
- 評価の3点セット
基本的に、評価は評価だけでは存在し得ない。



学習評価は誰のために、何のために

授業における評価者と評価対象の関連を示すマトリックス

評価対象	指導者(教師)	学習者(児童生徒)
評価者		
指導者(教師)	指導者による 指導者の自己評価	指導者による 学習者の評価
学習者(児童生徒)	学習者による 指導者の評価	学習者による 学習者の自己評価

佐賀大学文化教育学部附属中学校 研究紀要第23号 平成16年 p117より引用

指導と評価の一体化を実現する学習評価

学習評価の充実を図るための配慮事項（総則）

・生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること

・各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること

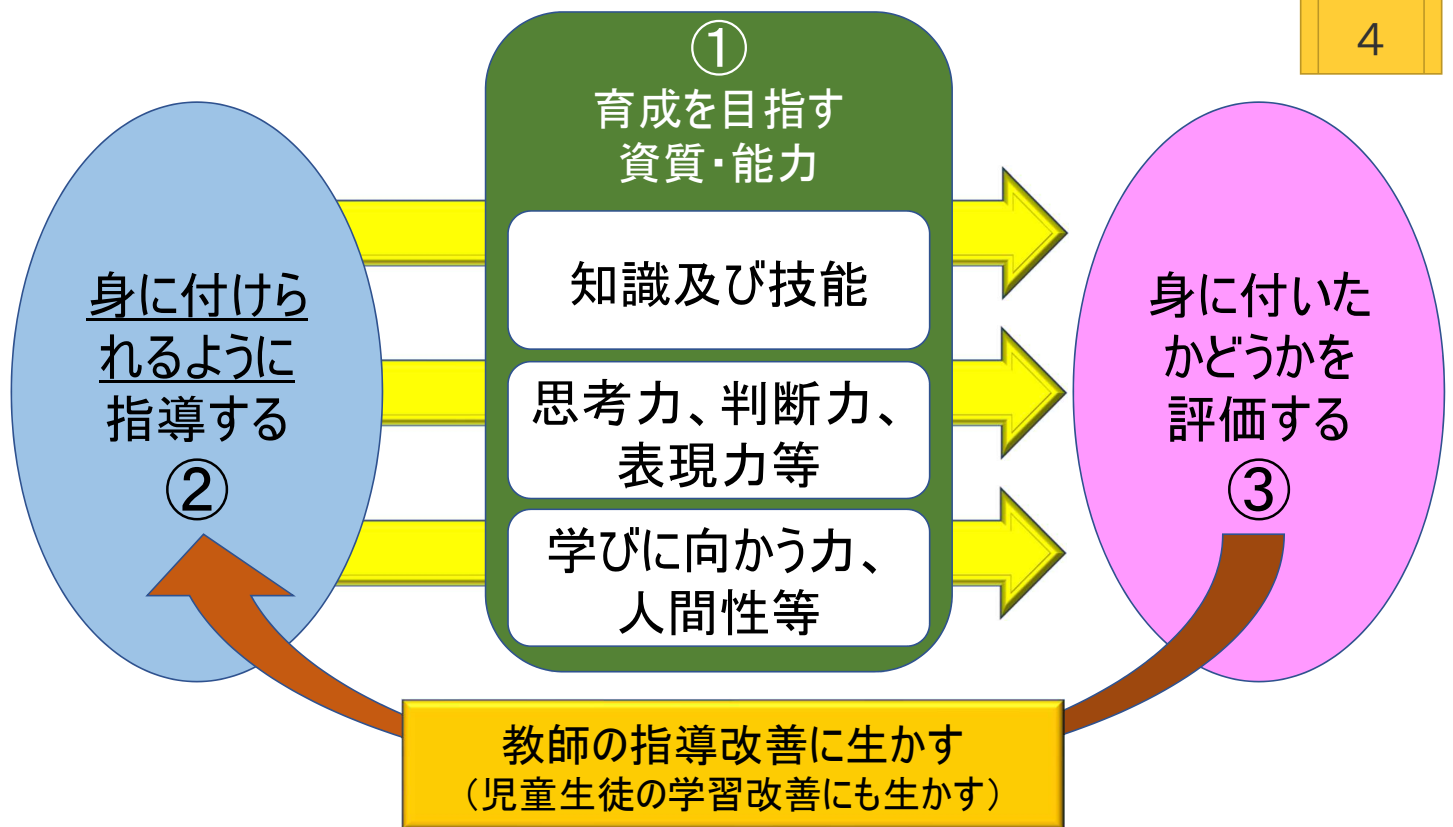
改善の基本的な方向性 「児童生徒の学習評価の在り方について〈報告〉」（平成31年1月21日）



① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

② 教師の指導改善につながるものにしていくこと

③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



教師や学校がやるべきことは ← 昨年もお尋ねしましたね。

- ① 児童生徒に を明確にする。
- ② その力が身に付くように「」の視点から授業改善を図るとともに、「」と「」の一体的な充実を図るようにする。
- ③ その力が身に付いたかどうかを適切に し、指導等に生かす。

「学習評価」とは・・・

学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価することですが、それは何のために行っているのかということが大切になります！

少なくとも、前期・後期や年度末に通知表や指導要録に記録するためにABC（◎○△）をつけること（だけ）ではないということですね。

指導に生かす評価 → それに基づく指導・支援
↓ タイムリーなフィードバック・・・これも評価
記録に残す評価 ↓ 子どもの最良のパフォーマンスを見逃さず
安易にテストに頼り過ぎないこと

「通知表」とは・・・

学校から児童本人や保護者・家庭に、学校での学習状況や生活状況（また、その達成状況・実現状況）をお知らせし、その後の児童本人の励みとなるようにするとともに、学習改善・生活改善につながるようにするために伝えるもの

通知表に求められるもの

- ①〔 〕性 ②〔 〕性 ③〔 〕性
間違えていない 納得できる 根拠、今後の見通し

「 」は目指すべきだけど、難しい。「 」はTP0に応じて

つまり、「通知表」とは・・・

「通知表」も、金立小学校が実施する「学習評価」の一部として機能するようにすることが大切です。

で、そこに至るまでの指導と評価（の一体化）を充実させることで、
（安易に目標を下げたりすることなく）

C（△）をあげなくてはいけない児童を限りなく0にし、自信をもって、
A（◎）をあげられる児童が増えるようにすることが大切です。

■ それでも、C（△）をあげなくてはいけない児童へのサポートは丁寧に

確認です！ 何のための評価なのか？

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと



「児童生徒の学習評価の在り方について〈報告〉」(平成31年1月21日)

- ・日々の授業における児童の姿は自らの指導の鏡です。
常に上に示している②につなげていけるとよいですね。
- ・通知表において、観点別の評価や所見で児童の学習状況を伝えることは、上の①に根差したものであることが大切ですね。

そのために2学期に向けてお願いしたいこと！

10

1. テストの結果だけに頼り過ぎず、可能な限り、授業での様子の観察、ノートやワークシートの記述など、幅広く多面的に児童の学習状況を捉えるように工夫してみてください。
2. 最終的に「要努力」(△)になりそうな児童が少なくとも「おおむね満足」(○)に、「おおむね満足」の児童はできれば「十分満足」(◎)と(先生方が自信をもって)評価できるように、指導・支援をお願いします。(まずは前期の評価)
3. 前期の通知表渡しでは、◎○△の内実やこれからの頑張り所をぜひ児童一人一人に伝えていただき、児童の後期からのやる気や学習改善につながるようお願いします。

夏休み中にぜひ行なってほしいこと

11

- それぞれの教科において、児童が身に付けるべき学力は何か？
記録に残す評価の材料として何をどの程度、取り扱っているか？
それらをどのように集約し、どの程度の判定基準を設けているのか？
といったようなことをぜひ、教員間で情報共有をする。
- みのもり学級の児童については、これらが個に応じて異なることの難しさもあることから、さらに情報共有を『密』にする。
- 今日の講話を受けて、一体どのような力をつければよいのか、正直、怪しい教科については、一度、学習指導要領解説に目を通す。
- 不登校(傾向)の児童など、日頃、十分に授業に参加することができていない児童の学習保障と評価の可能性についての見通しをもつ。
■ 「評定不能」は最後の最後的手段です……